

## 第1回 高齢者支援ネットワーク懇話会 議事録（要旨）

■開催日時 平成23年6月14日（火） 午後1時30分～3時40分

■開催場所 役場3階大会議室

■出席者 委員～12名、町～18名

|    |   |   |      |   |      |          |      |   |      |   |
|----|---|---|------|---|------|----------|------|---|------|---|
| 委員 | 山瀬 稔  | ○ | 石川健吾 | ○ | 岩田有子 | ○        | 大西恵子 | ○ | 岡村省吾 | ○ |
|    | 河原綾子  | ○ | 林 博六 | ○ | 廣部健二 | ×        | 松田敷子 | ○ | 三栖和之 | ○ |
|    | 山本暉人  | ○ | 山口議史 | ○ | 川端孝史 | （代理:林尚行） |      |   |      |   |
| 町  | 北町長、三本副町長<br>南課長、 岩口課長、高橋主幹、馬場係長、井内主事、 小澤課長、本田係長、石塚保健師、渡辺主査、 鈴木次長、 林事務局長、<br>碓井課長、相澤係長、遠藤主事、星野主事、都築主事 |   |      |   |      |          |      |   |      |   |

### 1. 開 会（碓井課長）

### 2. 町長挨拶

世界的な状況ではありますが、本町の高齢化率も34.4%を超え、超高齢社会（高齢化率21%超）になっています。このうち高齢者のみの世帯は全体の1/2であり、1,400世帯、さらに1/4（448世帯）が独居世帯です。高齢化の問題が“高齢化率の早さ”から“高齢者人口の多さ”の問題に変わってきています。また、町内で話を聞く中では、施設や高齢者用の住居を求め、都会に出ていくべきか迷っているという話も聞きます。

しかし、今の経済状況などから、やすらぎの家や健寿苑のような新たな施設を建てて行く状況ではなく、むしろ住み慣れた自宅で、自分らしく生活をして行く環境を作ることが、必要だと考えています。

東日本 大震災を経て、改めて自助、共助、公助の考えが大切だと言われています。

震災の直後、地震の揺れの中で自分を守るのは自助の力であり、自分1人では対応できない状況になったときに頼ることができるのは、地域の共助の力です。そして、公助とともに復旧、復興へと向かう。公助が活動を始めても、その援助の手が住民1人ひとりに早期に円滑に届くためには、共助との連携が効果的だと言われています。

今年度の町政執行方針でも謳いましたが、高齢化の進行に伴う生活や介護の不安解消に向け、行政の施策や民間事業者のサービス、そして地域コミュニティを有機的に結びつけながら、町民全体が連携し、ともに支え合う『高齢者支援ネットワーク』の実現に向けて、町民の皆さん、関係機関との連携について、検討を行うこととしました。この懇話会では、様々な分野に亘る高齢化対策の大きな政策の方向性や指針をどう掲げるかについて議論をお願いしたいと考えており、色々な立場の方が色々な角度でご意見をいただきたいと思っています。

### 3. 座長選出～互選により山瀬委員選任

（山瀬座長）奈井江町の高齢者支援策については、私も地域に住む一員として、また民生委員として、たいへん難しい課題だと認識しています。委員の皆様のご協力を得ながら、議論を進めて参りたいと思います。

#### 4. 議 題

(碓井課長) 《資料 2 高齢者支援高齢者構築に向けて P1 の内容について説明》

なぜ今、高齢者支援に向けたネットワーク作りが必要なのかという題名を掲げ、その背景を示しています。単に高齢化率は急速に高まっているという客観的な見方から、高齢者の人口が大変多くなっているという現実的な問題に変化しているということでもあります。

高齢者の増加に伴う、生活や介護の不安の解消に向けて、行政の施策や民間事業者のサービス、地域コミュニティ、この3つを有機的に結びつけながら、町民全体が連携して支え合うネットワークの実現に向けて、この高齢者支援ネットワーク懇話会を設置したところです。

《資料 2、P2 今後のスケジュールについてについて説明》

(相澤係長) 資料 2 の 13 ページをお開き下さい。

今、碓井課長からも説明がありましたが、「検討の視点」ということで、「行政サービスの新たな施策の展開は」「町内各団体、民間の役割は」「地域コミュニティ等の活性化は」と記載をさせていただきました。この点を踏まえて、私の説明をお聞きいただきたいと思います。

《資料 2 の内容について説明》

(山瀬座長) 事務局の方から説明がありましたが、質問・質疑等があればどうぞ。

(大西委員) たくさんのご説明をいただいたのですが、これらのサービスを受けている実感が住民にはあるのでしょうか。

(碓井課長) この高齢者ネットワークという大きなテーマは、役場にとっても全庁的な大きな仕事であり、各所管が一堂に会してどういった資料を作るべきか話し合い作成しました。行政だけではなく、民間の方にも頑張ってもらっていることもたくさんあり、この資料で拾いきれないこともあるのではと思います。これからの議論の中で PR 方法や、利用しやすくなる方法など、皆さんにご意見いただき、見つめ直していくというのも、この会議の趣旨でありますので、そんなことも含めて議論いただきたいと思います。

(山本委員) やすらぎの家も健寿苑も満床の状況ですが、入所している方は奈井江の住民の方ばかりでしょうか。

(小澤課長) すべて奈井江町の方ではなく、やすらぎの家で約 1/3 は町外の方です。町外の方からの希望があれば施設として受け入れます。

(北町長) 逆に奈井江町の方も、町外の施設にいるということも承知して下さい。

(山本委員) 待機している 108 名については、町内の方でしょうか。

(小澤課長) 108 名のうち、奈井江の方が 61 名。だいたい半分となります。

(松田委員) 町から老人入浴券が配布されているが、利用者はどれくらいか。

(岩口課長) 配布している枚数の約 8 割くらいご利用いただいています。

(松田委員) 「バスに乗るまでが大儀」、「お風呂が滑りやすいというので、転ぶのが怖い」と、行かない人が周りでも多い。入浴券も無駄かなと思ったりします。買物も少し大儀だという人がいる。カートを引っ張って行くけど、帰りは荷物が多く特に冬は大変。車に食料を積んで配送するシステムがあればいいのだが。

(大西委員) 農協での買い物の配達は、お金を払った状態での配達ですよ、電話注文は

できない、だから、コープさっぽろのような宅配のシステムでは自宅の玄関まで届けてくれるし、私の周りでも利用している人もいます。これからは色々な方法をいれていかなければならない。

(山瀬座長) 農協というお話もでたので、林さんから一言いただければ。

(林尚委員) 農協では、昔からサービスの一環として、ご購入いただいたものご自宅までの配達をやっています。移動販売車で離れた地域に行くということも過去に考えたこともあったようですが、私個人の意見ですが、コスト的なことで現実には難しいが検討していきたいなと思います。高齢者の方もお店に買い物に来ていただけるような店づくりを検討していきたい。

(岩田委員) 介護保険施設の待機者のうち、在宅 15 名となっているが、その内訳は。

(小澤課長) 待機者の内訳は、15 名が自宅でそれ以外では病院に入院されている方、老人保健施設や別の町の特別養護老人ホームに入所されている方、グループホームに入所されている方です。

(山口委員) 11 ページの社会福祉協議会の「小地域ネットワーク活動」について、具体的にはどのような活動をされているのか。

(高橋主幹) 地区によって活動内容は様々ですが、食事会や誕生会、研修旅行、草刈り後の飲み物代、それ以外で安否確認や地区によっては除雪関係のボランティアも行っています。農村地区は連合区単位が多く、老人クラブとタイアップした活動をしています。それぞれの団体に補助金として支出しています。

(山口委員) 7 行政区が未実施となっていますが。

(高橋主幹) 農村地区は今年度の高島地区の加入でほぼ 100%なのですが、本町の半分の地区や北町の一部、住友新町できていません。

(石川委員) やすらぎの家の待機者数ですが、数年前に聞いた話では、たしか 40 人くらいと聞いています。今回のこの資料はものすごく待機者が増えています。関連して、短期入所系サービスの利用実績も満床に近い状況ですね。

(小澤課長) 過去に、「介護度が高くなく、将来的に入所できたらいいな」という方の人数を除いた数字を公表したことがあります。今回は介護度だけではなく、在宅での介護の状況など総合的に基準を見直したこともあります。在宅で介護されている方、他の施設に入所されている方で重度の方が多いのですが、特別養護老人ホームの入所状況に合う状態の方がかなり増えているというのが実態です。短期入所については、やすらぎの家は 10 床中、6~7 床のご利用があり、町内や町外からの利用もあります。健寿苑については、通常の入所の方が 48 名、残り 3 床で短期入所のご利用をいただいている実態です。

(山瀬座長) 引き続き事務局より説明をお願いします。

(相澤係長) 資料 2、13 ページと資料 3 の最後のページをお開き下さい。

「高齢者あるいは、その家族のニーズはどこに」ということを記載しておりますが、そのニーズについては委員の皆さん、今までの経験から感じておられることも多いと思いますので、そういったことをベースにされまるとともに、併せて資料 3 をご覧いただきたいと思いますが、今年 4 月に、要介護認定を受けていない 65 歳以上の方を対象に、空知中部広域連合で行った日常生活圏域ニーズ調査の奈井江町分のうち、自由記載欄に記入のあった、「困

りごと」のすべてを書き出した資料を配布しています。

除雪や草刈りなども含め、肉体労働のような困りごとが多いようです。

その上で、資料 2 の 13 ページに戻りますが、「検討の視点」ということで、「行政サービスの新たな施策の展開は」「町内各団体、民間の役割は」「地域コミュニティ等の活性化は」という、大きく 3 つの視点を挙げ、それぞれの視点において、町全体が連携し、どんなサービスや手助けを充実し、優先して進めるべきであるか、委員の皆様から、これ以外にも議論をする視点が必要であれば、ご意見をいただきたいと思います。

(山瀬座長) ただ今、事務局より、高齢者を支援する検討の視点ということで説明がありました。この 4 点の他に皆さんが取り上げて欲しい課題や視点等のご意見をいただければと思います。

(岡村委員) 奈井江の現状がどうあるのかということの認識を深めながら、さて次にどうということが大事なのかを皆で検討してことが大事だと思います。

(北町長) 先ほどの行政サービスの中で、やすらぎの家、病院などの待機者で在宅が 15 名となっているが、実際色々な理由で申し込みをしていない人が相当いるのではないかと思っているのです。現状を含めお聞かせください。

(山瀬座長) なかなか審査も厳しく、在宅で介護も大変だという方もいます。これらのことについて、近くでお話を聞いていることはありますか。

(岡村委員) やすらぎの家の 108 名の待機者のうち在宅が 15 名ですが、空いていれば特別養護老人ホームに入れたいのだけれど、病院の療養型ベッドで間に合わせているとか、健寿苑に入所し、やすらぎの家に申し込んでいる数もここに含まれていると思う、内訳を教えて欲しい。

(小澤課長) 内訳として、在宅 15 名、病院に入院が 27 名、病院の介護療養病棟に入院 13 名、老人保健施設 36 名、やすらぎの家以外の特別養護老人ホーム 2 名、養護老人ホーム入所 1 名、グループホームが 12 名、その他が 2 名で実態としては何らかの施設に入っている方が多いです。

(北町長) 在宅の 15 名は実際どのようなサービスを受けているのか。

(小澤課長) 在宅で申し込まれている方の介護度は、平均で要介護 3 が多く状況です。身体的・認知的なことのサービスが必要で、訪問看護や訪問介護、ショートステイの利用が多いと思います。

(大西委員) 町立病院に介護療養型がありますが、一旦廃止になるという話も聞いたのですが今後、維持できるのでしょうか。国の話が二転三転していますが。

(小澤課長) 「介護療養病棟を廃止して介護療養型の老人保健施設に切り替える」という考えが国でありましたが、今すぐに廃止ではなく、6 年間は介護療養型病床を残し 6 年後どうするかということを検討するということになり、当面はウチの病院は 30 床ありますが、続けていきたいと考えています。

(大西委員) 今、入っている方はそうだけれども、補充はしないとの話も聞きます。30 床あるのですから、亡くなった場合など、新たに利用できるのですか。

(小澤課長) 今の国の考え方では、新設することは認めないということです。現在の 30 床を増やせませんが、30 床の範囲の中での入れ替わりは可能です。

(大西委員) 高齢者人口が増え、うちにも 95 歳の家族がいるのですが、そのような人が

病気になっても、「年寄りには治らないから、お帰りください」みたいな感じもあるし、家庭でも看きれないこともある。これから2、30年そのような受け皿がないと。

(岩田委員) 福祉バスが、温泉への運行を行っているようですが、温泉 63 日その他 80 日とありますが、各種団体の利用という理解でいいのか。福祉バスの運行のあり方については、いわゆる買物難民と言われる状況の方の利用は考えられてないのでしょうか。

(碓井課長) 資料2の6ページに生活交通ということで掲載していますが、福祉バスの温泉への定期運行が63日、そのほか老人クラブや子ども会や行政で、バスが空いているときに延べ80日利用しています。

次に買物難民についてですが、13ページの検討の視点のところ、行政サービスと民間の役割の考え方について、示させていただいています。上から3段目に買物難民対策、地域公共交通、生きがいづくり、これら「足」の問題として、全てに関わってくると報道されています。買物難民と全国的に言われている大きな課題は、店すら無くなるという地域が出てきていることです。店の確保も必要だし、あるいは逆に店の方から移動販売車のようなものを行っているところもある。色々なものを組み合わせて、皆さんが難民にならないようにしなければというのが大きなテーマだと考えています。先ほど皆さんと意見交換させていただいたのですが、将来的に出来る範囲でこれから議論していただきたいと思います。買物ばかりでなく、病院や生きがい対策として、もっと表に出るといっても含めたときに足をどうするか。

まだまだ奈井江町は過疎地域と比べ、中央バスやJRを含め公共交通が恵まれているのかもしれませんが、しかし、自宅から出かけるということはどうフォローするかというときに、今の既存のスクールバスや福祉バスの活用法はないのかなど、将来に向けた課題としてどうあるべきか、大きな議論の1つとなっていくと思います。

(山瀬座長) 自由討議ということで、何か一言ずつでもありましたらお願いします。

(林博委員) 足の問題については、特に農村部では深刻になってきて、自分はまだ車に乗れているのですが、運転を止めるとどうなるかと心配になります。いずれ車に頼れないときがくるのでは、と思うと買物を始め色々なことが不自由になってきます。老人会には比較的人が集まってくるので今後、老人会に地域の皆さんが出てくれるように支援していきたいと思っています。

(三栖委員) 自分も介護をしている立場で、やすらぎの家を利用している。まわりを見ると80代以上の老老世帯が多い。健寿苑やグループホームに預けておけば、子どもたちも安心である一方、親との距離が広がっていく。老人会とかでも利用してとは思いますが、老人会でも男性は入るが、女性は入らないという問題もある。

(大西委員) 北海道新聞の白書に『高齢者の孤立化進む』という記事があり、奈井江町もその通りだなと思います。やはり、60代70代は若い。85歳くらいまでは、たいてい元気なのですが、90歳代の声を聞くと元気な人も動けなくなってくる。母親に言わせると「年のせいだからしょうがない」と言われている。

母親は私がいるからいいが、もし一人暮らしなら、どうしてあげたらいいのか。行政にしていることはあるが、やはり隣近所を大事にして、ほんの少しのお話でもいいから常にするということが大事だと思います。

「〇〇の会だからおいで」と言っても決まった人しかこない。決まった人は行けるから行くのであって、行けない人はどうするかといたら、やはり隣近所の声かけが必要。出かけるときも、タクシーを何人かで乗り合うとか、バスを一緒に行き帰りするとか考えていかなければならないと思います。

あと、宅配も便利だが、奈井江は奈井江の店を大事に利用するというのも大事だと思います。

(石川委員) 「高齢者が安心して暮らしていくため」にはどうすればいけないか。独居世帯、老老世帯が多いが、施設入所もできない、子どもと一緒に住まないことも多い。友人に相談を受けたことがあり、親が今まで一人暮らしできたのが、病気になり在宅生活が出来なくなったとき、お金がなかったら施設にも入れない。介護度が出ないと特養施設にも入れない。本人も在宅を続けたいが、認知等の問題もあり、子どもも一人では置いておけないから心配だと言うことです。行く場所がない高齢者の方が結構いて、安心して暮らしていけない問題がある。今後、行政としてどのような施策を打っていくのか。箱モノのサービスも行政改革もそうなのですが、独居の方の生活応援をどうするのか、老老世帯にはどのようなようにしたらいいのか、など段階に分けて問題を出していき議論を進めていくのもいいと思います。

(林博委員) 施設に入っている人は職員に介護して貰っているのが良いのですが、ひとり世帯や高齢者の場合に保健師とかが訪問したり、電話をしたりしているのでしょうか。住民からではなく、保健師側から様子を伺うとか、定期的に訪問していたりすると安心度が違うのではと思います。

(三栖委員) やはり施設が足りていないのではと思います。高齢者が増える割に施設の数はそのまま。これから年齢が上がっていくことは間違いない。

(北町長) 施設を建てるのも非常に難しくなっている、そこで、在宅でどのようなサービスを心配なく、安心してできるか、これが課題です。

(岡村委員) 今、平均寿命は女性が 86 歳で男性が約 80 歳。長生きしてきて喜ぶべきことが、喜ばなくなっている。本来は喜ぶべき事なのに。

(松田委員) やはり女性の方が、一人暮らしになっても精神的に強くなっているということがある。男性は、私の夫も調子悪かった時はひ弱になり、閉じこもってしまうというか、病気が病気を呼ぶと言った感じですね。

(大西委員) たぶん、生活の術を知っているのは女性だと思うのですよ。特に食事の面なんかも、奥さん任せになっているのだと思います。

(岩田委員) 近所の方で、今まではシルバー人材センターに頼んで、畑の草取りなどをしてもらっていたのですが、今年は近所の人に頼んで、自分の思い通りにしてもらったという話を聞きました。社協のサービスのあり方も、もう少し個人の意志を反映してもらいたいと思いました。それと近所仲良くそのようなお手伝いをしてあげられる人と、してもらいたい人とのコミュニケーションができればいいなと思いました。

- (大西委員) 「助け合いチーム」という名前はありますが、本当の意味での活動がされていないという気がする。「お花見のお弁当の負担は少ない」、それは助け合いではないと思う。もっとコミュニケーションを上手にとるにはどうしたらいいのか、というのを考えていくことだと思います。
- 最近、新聞にサロンが良いとか載っています。町内の空いたスペースとか軒先とか玄関先とか、お茶を飲む場所を作るとか、そういうことも必要では。町でやってもらうよりは、これからはお年寄りでも自分で参加してやるっていう方法を考えていければと思うのですが。
- (岩田委員) 小地域ネットワークづくりについて、一方的なサービスは少ないという部分と年齢的に出かけられなくなっている人を無視して行うことも難しいです。南町では訪問の方向に切り替えたら、ずいぶんお話するようになったという声も聞かれました。
- (大西委員) 一方的に何かをしてもらってというよりは、参加してもらってというようにし向ける。座りこんでいる人を「外へ行こう」と言ってもなかなか難しいので、その家に行って、お茶飲みに行くとか、細かいサービスが必要だと思います。女性のおしゃべり会ってというのはとても良いと思います。
- (山瀬座長) 震災の関係でテレビなんか見えていますと横と横との助け合いが重要だということを感じました。
- (大西委員) 仮設住宅も入らないとか、(避難所で) せっかくコミュニティができたのに、そこから出て行くと孤立してしまうとか。仮設住宅に入ったのに金銭の問題ももちろんあるとは思いますが、孤立してしまうという不安です。
- (松田委員) 私はやすらぎの家に月 2 回、ボランティアに行っています。そこで新しく入所される方を見ていると、最初は元気があったのに徐々に気力がなくなり、精神的に不安定になっているように見受けられます。介護士さんの人数が足りていないのか、何かしてほしいと私たちボランティアのところに来るが、すぐ連れて行かれてしまう。もう少し見守っていただければ。
- (小澤課長) 人数的なことについては基準がありますので、それに沿って配置していますが、お話のとおり、大事なことだと考えておりますし、併せて施設のボランティアさんと一緒になって入所者の皆さんのケアサービス向上に向けて施設として努力していきたいと思っております。
- (岩田委員) 独居で、3 日間、誰とも話していないという人がいた。そこに行けば、誰かに会えて話ができるという、気軽に出かけられる場所があるといいです。
- (山本委員) 老人クラブの活動が、全町で 10 ヶ所くらいと書かれてありました。実態としてどういうことをやっていて、会員の皆さんがどういう要望を持っているのかを確認し、老人クラブでどのような意見が出てくるかというところを出発点とした方が、懇話会の流れとしてスムーズだと思います。
- (山瀬座長) もう、ご意見がないようですので、今回はこれで終了させていただきます。
- (相澤係長) 次回の会議は 7 月を予定しています。資料等ありましたら、事前に配布させていただきますご案内させていただきますと思います。
- (山瀬座長) 次回また意見をいただき、勉強いただきながらこの会を進めていきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。